夕刊
十月十四日發行
定價一ヶ月金六拾五錢
廣告料金　一段一行金六拾錢　同裏面金九拾錢　五段十二字詰一行金一圓
（公認指定）
磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

磐城炭田開拓の濫觴

佐藤信敬

思へば既に八十年の昔即ち嘉永、安政の頃世は封建、安政五年十月御用石炭買上産業開發てふ事杯は頗る困難であり殊に石炭は尚ほ世に其實質を認められざるの時に於て果然炭田を發見して畢生の力を振つて之れが販路の開始に從事し或は幕府の御用に應じ或は炭油の製造に從事し遂に輸出の端緒を開きて我が磐城石炭業の開拓に功勞最も顯著なるもの、即ち片寄平造氏なるを知る。

氏は文化十年二月磐城郡大森村に生れ、人呼んで大森平造といつたのである今其の努力の一斑を聞くに頃は安政二年六月平町の南を流るゝ新川に於て石炭塊數個を發見し、蓋し水源に存在するものであると思ひ白水村の高崎今造氏に相談し共に川を溯り、鋭意渡索して遂に彌勒澤といふ所に發見したのである。直に之を携へて戸に上り明石屋次右工門に會見し共に採掘せんことを約したのである。併し困つた事には領土違ひ片寄氏は笠間領の人にして白水村は湯長谷藩領にして直ちに採掘といふことには行かぬ、相當の採掘認可の手續をせねばならぬと江戸より歸り白水村の大越甚六氏と謀り、首尾能く出願が聽き屆けられたのである。於是採掘は開始され、小名濱より海上江戸に送り始めて販路を開くに至つたのである。實に安政四年五月であつた。それが磐城炭田發掘の濫觴であつて片寄氏は炭山の元祖である。

氏は又石炭より油を製造する方法を發明した、之れを炭油と云ひ、當時軍艦、汽船の外部の腐蝕を防ぐ防腐剤として大に需用された事は

某方面に活動すべく選抜されて目下待機中

小名濱町出身の小松主税君が母校磐中へ歡びの通信

在滿兵磐中第三十回卒業生小名濱町松の中小松主税君は所屬○隊から撰抜され近く某方面の任務に活躍すべく待機中なる旨最近母校の某教諭に通信あつたが左記はその中の一部分である。

——我が奉天城警備してたので歸順を申し込むものが多くなりました。（後略）

大なる變化ありませんでしたが八月二十七日突如として變動した請安遊擊隊○○の○○兵や學良系の匪賊大學して來り遂に地理明るき爲飛行場を燒かれ新國家下諸般の準備中で今十四日の飛行機及び四五台やられました。その戰鬪で第○○隊の小關特務曹長が戰死されました、それより九月十八日迄毎日の襲擊で丁度夜も寢られない有樣でした。（中略）それがら北滿の風雲又惡化して第○○隊出動しましたが後に附近の匪賊も新國家承認と云ふ事になつ

武勳を輝かして若松大佐平入り

明十五日午後一時五十分著

陸軍騎兵學校教導隊長若松晴司大佐は愈々明十五日午後一時五十分で來平するので平各小學校では五年以上が國旗を持て驛前に堵列歡迎する

忠魂祭役員

明十五日の忠魂祭典に就き在郷軍人會と平町役場で目下諸般の準備中で今十四日左の如く役員を決定した

△總務山崎清三、鈴木榮藤田榮助△受付係長佐藤伊太郎△祭典兼式場係長藤井一△來賓係長四家久米治△遺族傷兵接待係長赤津一△庶務係長酒井貢之助△會計係長大河原金之助

愈々あす解禁！

犬は勇躍し鐵砲がはづむ

石城郡下の獵場調べ

犬は勇躍し鐵砲がはづむ獵解禁の秋は明十五日から蓋が開く、獵友會に籍を置く大天狗、小天狗の面々はも う既に數回にわたる獵場偵察を了し、既にそれ〴〵の目標は決まつてゐる、處で石城地方の獵場はどんな處か、東白川郡鮫川、宮本村を境とする田人、荷路夫、石住、入遠野、澤渡、永戸の各村は平町方部の狩獵家のため荒されて年々寂しくなつて行くが本年は二割以上の繁殖ぶりである相當地方人を喜ばすであらう。海岸方部は江名町、豊間村の山嶽地帶は相當やまどりの多い。スポーツマンよ何處へ行く。

地方にも美術の秋

X會と美友會の作品公開

磐中校友會美術部第三十九回X會展覽會は二十二日から三日間平町磐城訓盲院に於て開催されるが外に參考品として美友會員の作品も陳列一般に公開する

。。。。。演習地踏査　磐中の發火す、御尊書拝讀して私は泣りました——『除隊日に喜ことでせう——渡邊さんのありがちの兵營生活を馬鹿〻ために死す』と汝上官の

演習は二十八、九の兩日泉渡邊村附近に於て行ふ事に決定今十四日八谷配屬將校外係教諭が實地調査をなした

晩秋蘭終末

昨日四倉で卅九貫

四倉商市場昨十三日の相場左の如く愈々終末期の出廻り不足を告ぐるに至つた

白質數三十八貫、最高五十二圓二十錢、最低四十二圓八十錢、買馴五十圓

平町青年分團對抗スポンヂ野球大會

——出場チーム決定す——

平町青年團對抗スポンヂ野球大會は十六、七の兩日泉前九時から平第一、商業の兩球場に於て開催するが申込は左記十一チームで昨年優勝の南町と三丁目、胡摩澤田町等今年の優勝チームとして目され今十四日午後七時から信用組合樓上に於て組合せを決定すると

南町、新川、白銀、三丁目、一丁目、五丁目、胡摩澤、田町、長橋、久保町、紺屋町

平倶樂部庭球選手遠征

明後十六日川俣へ

平倶樂部では二十、三日の關東北庭球大會を控へ必勝を期して猛練習中であるが十六日午前九時から伊達郡川俣庭球大會に左記精鋭が遠征する事となり十五日夜出發する

（高木（藤田（佐藤（根本（長谷川（吉田

佐藤（大坪

。。。。。平南磐中職員野球　十五日午後一時から平商グラウンドに於て行ふ

。。。。。女流選手の卵

磐女運動會に出る各小學校代表決定

磐城高女運動會は十七日午前八時から開催されるが當日の呼物たる郡内小學兒女の四百米、百米の選手は次の如く八校である

（四倉）鈴木チカ、吉田テイ、佐藤ミユキ、國玉愛子（山田）渡邊キノ、澤田コウ、小澤サト、和田千枝（飯野）草野マサヨ阿部スミ、大橋テル（平二）中村春子、丸山八重子、阿部弘子、鈴木睦美子（好間）今トキ、石塚アサ子、石井キク、大沼ハル（神谷）鈴木ヨシ、木村美代子、佐藤美良、江尻トヨ（平三）高野弘子、鈴木ひで、今田操、

實る秋

農村チツケス〔三〕

松林のうしろに煙りは靡く

風冷い村の道を行く孫太郎虫賣り

▽　△

遠近の山の朝靄も晴れて肥料をつけた栗毛の馬を牽いて、白い手拭で頬冠りしく鍬を揮つて居る。

▽　△

風が強いのか松林の後に見える太い煙突の黑煙が東の方へ長く棚曳いて居る

『奥州仙臺名産は……』

風の加減か途切れ〳〵になつた頃れ聲が聞えて來る見れば六十の坂も越えた樣な老爺さんが藥入れの行李を眞直な土手を東に慕進して行つた汽車の響きに靜寂な朝の幽玄の曲？は絶もなく破られてしまつた。

（鈴光生）

▽　△

松の梢に北風が吹く、白露の結んだ足下の葉蔭には虫の聲が繁し、朝の街道は人の聲が繁し、朝の街道は妻の媒酌により東京市世田ケ谷區世田ケ谷の大地主齊田萬藏氏の三女實技嬢と婚約整ひ來る十七日午後五時上野精養軒に於て、二十二日午後三時から平町マルトモホールに於て披露式を擧ぐることゝなつた、新婦は芝三田四國町の高等女學校卒業後麴町の東京家政專門學校を卒業した才媛であると

た紺の法被のいでたちに、同じ手甲股引の女が節の緩かな唄を歌つて來る、此方の小山の裾の畑では、向鉢巻で逞しい筋肉の男が、輕と云ひ終ると一ト安心した左手にして

『癇の妙藥孫太郎……虫』

かの如く道端へ手ばなをかむとそそくさと通り過ぎて行つた。

永遠の生命を

彼の世に求めて死を急ぐ多恨の男女

心中の片割れは縣立磐城高女出身

手當の結果助かる見込（男は絶命）

十二日午後一時頃双葉郡木戸村大字前原字田中内地内で若い男ら男と戀仲になり夫婦約束女が抱き合つて苦悶中を慕地で栽途の稽古中六月頃から係官急行檢視の上附近の上身許取調べた處男は同村大字下小場字五〇早川祐信（一九）女は同村大字山田岡字地内愛藏三女渡邊ナミ（一九）と判明、祐信は同夜十時遂に絶命したがナミは手當の結果どうやら生命は取止める模樣である、原因は掃除に來た某が發見富岡署の上附近ナミの家は同村でも相當のが豪家で今春縣立磐城高等女學校を卒業その後家庭にあつて兩名しめし合せて同日朝家出し男の持出して來たカルモチンを服用して情死を計つたものである

善良な生徒だつた

磐女中川教頭のナミ女觀

悲戀物語りのヒロイン。渡邊なみ子の性質素行に就て母校磐女の中川教頭は語る

『今朝も話し合つたのですが當人は至つて大人しい性質で在學中曾てその方面の噂も聞いた事がなく成績も中以上で如何にも善良な生徒でした、恐らく學校を出てから何等かの機會に於てそうした方面の交渉が行はれたのでせう、蔭乍ら豫後を心配して居ります』云々

平驛再た收入減

去月中の活況は糠喜び

平驛去月中の貨物動態は頗る活氣を呈し昨年同期より遙かに成績良好であつたが今月上旬の統計によると

到著二、七三四噸　發送七二八噸　收入二、一四九圓　旅客收入六、四七九圓

で貨物收入に於て三百九十圓、旅客六百六十六圓の何れも減で再び以前の悲觀に逆轉した

。。。。。人力車体檢査　今十四日午前九時から平署前で行つたが合計二十一台で全部合格したが次第にスピート時代から驅逐されつつある形である

中の作、折戸の紛糾手打ち

當局の方針尊重

河野江名町長と町議數名の一行は目下紛糾中の漁港問題に關し縣と農林省に陳情して昨十三日歸町したが直に中之作、折戸双方の關係者を招致し圓滿解決方に就き懇談した結果相互の反對運動を打切り其筋の方針に依り善處する事となつた

滿洲行

藤田中尉

—信五十九第—

許に入つた。父君の信書にはかう書かれてあつた（原文のまゝ）

三十一日附で

余の手！

◇藤田先生私　は山崎正己の父親であります、今回豚兒營死しましたにつきましては御懇篤なる御慰問下さいまして有難うございました

◇先日の御慰　問に對しても御親切なる御慰問をうけたことに感激して——先

る其父君

くも御親切なる御慰問をうけたことに感激して——先

。。。。。けなげな

。。。。。

。。。。。

。。。。。